



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 うめ草⑤

～日本の社会福祉 ^{いしすえ}礎を築いた人々～

私の知人、立正大学蟻塚昌克教授が全社協から今般出版をした著書（定価 2,000 円）を紹介します。本書は明治期から第二次大戦までを第 1 章、戦後から今日までの社会福祉を第 2 章として、人物と業績にスポットライトを当てながら、我が国の社会福祉（事業）の通史として書かれています。社会福祉の歴史を知ることは今日私達が立っている地点を明らかにする上で大きな意味を持ちます。まして礎を築いた人々を知ることは身近にこの世界の先駆者の業績を感じ、^{けいがい}警戒に接することになれるのです。私達の働きに輝きを持たせてくれます。

制度が整備され、安定した事業となった今日の社会福祉法人の危機についても、「期待される社会福祉法人の役割は何か」の項で鋭く分析をされています。曰く「制度の中の福祉活動は、制度のルールで運営することが求められ、もっぱら制度の枠内で定められた事業に専念すればするほど、公金に依存する体質が強まり～中略～社会福祉法人の意思で社会福祉事業が経営されているという本来の構図は忘却されかねません」と述べています。一方公費で経営される事業は押しなべて経営の安定をもたらし、剰余資金も発生させています。契約制度や保険報酬による事業経営がすすめられながら、同時に法人改革が主張された大きな理由はここに在ると指摘されています。平凡人たる私には耳の痛いところでもあります。

また第 3 章の「社会福祉の精神 48 人の実践より」には身近な処に歴史的にも立派な人が居たという私達の日常の実践活動に自信を持たせてくれる章です。全社協の歴史ある社会福祉の総合誌「月刊福祉」に、「礎を築いた人々」として紹介された日本の社会福祉先駆者 48 人の記録を再編集の上、加筆をしたものです。その中に法人創業者稲永久一郎と、衣鉢を継ぐ人物として児童養護を中心としています。前理事長高橋利一氏の言葉を紹介しています。

私としては事件のあった児童養護施設「若草寮」の礎石を置いた『山田わか』の紹介も是非ほしかったところです。彼女はアメリカの苦界に身を置いた過去を持ちながら、その後日本の母性保護運動の先駆者として『平塚らいてふ』らと共に闘った社会事業（運動）家でもあったのです。

ともかく、本書は至誠学舎立川で福祉実践に取り組む一人ひとりの教養として読んでいただきたい図書です。購入は直接 [全社協出版部受注センター](http://www.seicho-shoin.co.jp)へ (049-257-1080)



理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ



朝、画面に「京王・小田急線運転見合わせ」の文字。こうなると調布の若葉・柴崎センターはたちまち孤島と化し出勤不能に。すなわち送迎車が出せなくなる。唯一ルートは JR 三鷹駅からのバスなのだが、超絶大混雑は必至。「三鷹に車を出して職員をピックアップ」との機転。かくしてタクシーやバス、自家用車などでごった返す三鷹駅前にワンボックスの「ブルークロス」が燦然と現われる。携帯で連絡の着いた職員はもちろん、知らずに駅に降りた職員までもがあの目立つカラーリングに思わず惹き寄せられる。こうしてぎりぎり出勤、なんとか事なきを得た。あのデザインから 20 年。ちょっといい話が聞けた。

高齢事業本部長 旭 博之

事業本部情報

🌿児童事業本部🌿

至誠セミナーが開催された7月26日は、3年前の2016年に相模原市の津久井やまゆり園で入所者殺傷事件がおきた日でした。とても大きなそして衝撃的な事件でした。犯人の生い立ちや考え方（優性思想）、被害にあわれた方の匿名報道についてなど、様々な事がテレビ、ネット、新聞等々で語られました。そして3年たった今、あの時の様々な視点からの意見はその後何かを変えたでしょうか。障害について、障害のある人についてたくさんの考え方や思いがあって当然です。もっともっと意見を出し合って議論すべきだと考えます。そして特に私たちは、意見表明に困難さを持つ障害のある人たちの声なき声に耳を傾け、社会に訴え働きかけなくてはならないと考えます。

少し前ですが「道草」という映画をみました。「重度」とされる行動障害のある4人の自立生活を描いた映画です。その内のおひとりは津久井やまゆり園で生活をしていて、事件で被害にあい一時は心肺停止状態でしたが一命をとりとめ、44日間も入院をされた方です。障害のある人が一人で生活すること、生きること、施設でくらすこと、家族とは等々について考えさせられる内容でした。8/3(土)から8/9(金)に世田谷にある「下高井戸シネマ」で上映されます。興味のある方は是非ご覧下さい。
(ワークセンターまことくらぶ 施設長 阿久津嘉代子)

🌿保育事業本部🌿

しせい太陽の子保育園は日野駅の崖に面した自転車置き場を利用し、待機児解消の役目をもって平成18年4月、4階建ての園庭のない保育園として始まりました。14年の時が過ぎ周辺の環境も変わってきました。しかし日々の散歩も例年どおり活動を続けています。6・7月はお天気ははっきりせずプール開きをしても入れずに過ごしていましたので8月の夏空を心待ちにしています。

最近ではプール活動時には1人監視員をたてて、プール活動をすることになりました。当園では1階2階3階と年齢よっての活動の為、3人の監視員が必要です。熱中症対策も対応しながら、職員の夏の休暇も取りながらの体制作りは大変で主任が頭を痛めています。でもお子さま達に暑い夏楽しく過ごしてもらおうためにと頑張っています。太陽が毎日出てお子様たちの元気な声が聞こえることを想像しながら楽しみにしています。
(しせい太陽の子保育園 園長 廣瀬優子)

🌿高齢事業本部至誠ホーム🌿

この秋、これまでの至誠合同バザーに代わり、今年度は「至誠祭り・バザー10月19日(土)」として開催いたします。実行委員長は至誠ホームの金井が務めます。

7年前(平成24年度/2012年)、今の至誠ホームアウリンコ建設前の更地で「至誠祭り」を行いました。三事業本部の正に初めての合同運営の行事でした。当時、至誠ホームの大村副ホーム長がヘッドになり運営し、近所の子供たちの空手演武や明星学園のマーチチングバンドの行進、そして児童事業本部の歌や保育事業本部・園児たちの踊りなど楽しい内容でした。模擬店も沢山ありました。昨年の「至誠合同バザー」や「至誠ホーム感謝の集い」の時よりもっと大きなテントを立て、そのテントの下には丸いテーブルがたくさん並び、みんなで楽しく食事したり談笑したものです。

近年、バザーはディスカウントショップなど低価格商品の大量流通の影響もあり、新品衣料・商品などでの集客が難しくなっており、バザーの内容をアレンジしていこうと考えております。昨年は、ボランティアで参画してくれる企業や団体も新しく呼びかけて参加を募りました。

今年のバザーはさらに他の団体への参加を呼びかけ、「至誠祭り・バザー」として盛り上がるよう内容を煮詰めたいと思います。(法人理事/高齢事業本部 至誠ホーム 統括事務局長 金井裕一)

本部事務局だより

突っ込みどころが違うだろう!!「年金100年安心騒動」が半月もたたないうちに「年金2000万円足りない騒動」にすり替えられている。さすがに分が悪いと見た野党の選挙戦略である。しかし、これもまた議論がずれている。厚生労働省がH25年に発表したサラリーマン・公務員(妻専業主婦)の場合、平均年金収入は203,031円/月、総務省統計局H26年度に発表した支出は268,907円/月であり、単純計算で▲65,876円/月となり、仮に90歳まで生きると▲2000万円となる。5年前から判っていたことであり、目新しいことは一つもない。問題は、昔は終身雇用制で定年まで勤めあげれば、これに退職金と企業年金が貰えたので、暮らしていけたが、非正規雇用者数の割合が37%を超える現在においては、基礎年金(独身=54,622円/月)だけになるため、直ちに貧困化することは目に見えている。これに加えて生産年齢の引きこもり61万人(内閣府H30年調査)が親族の収入で生活している。親族がいなければ年金すらなく、餓死状態である。

終身雇用制は、経営者にとっては悪魔の制度だったかもしれないが、日本を発展させ安定化してきた社会制度であったのは間違いない。これが崩れたとき、格差と貧困はますます拡大し社会不安が広がることになる。これからは低所得高齢者が対象の軽費老人ホームこそが求められる時代だろう。

(法人事務局 局長 野島忠幸)

<編集子>まこと館の2Fには御下賜品「虚空蔵菩薩」があります。無限の知恵と慈悲をもち人々の願いを叶えてくれる、丑年・寅年生まれのお守護神。心癒されますので、まこと館にお立ち寄りの際はぜひお参りを🙏